

第1節 学校の授業について

1. 好きな教科・嫌いな教科

【小学5年生が好きな教科のベスト3は、①図画工作（とても好き＝63.5%）、②体育（61.1%）、③家庭（57.7%）の実技系の科目。性別には、男子は体育がトップ（74.8%）、女子は家庭がトップ（71.9%）である。また、前回との比較では、図画工作と家庭が「とても好き」が大きく増えている。嫌いな教科のトップは⑥算数の25.2%（とても+まあ嫌い）で、4人に1人が算数嫌いの児童である。】（図1-1、表1-1、表1-2）

Q3

あなたの学校での勉強についておききます。

A. あなたはつぎの教科の勉強が、どのくらい好きですか。1)～8)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

図1-1で、小学5年生の教科の好き嫌いを見てみよう。

この図を見ると、実技科目が人気のベスト3を独占している。好きな教科のトップは、①図画工作であり、63.5%の児童が「とても好き」と答えている。この数字に「まあ好き」の23.0%を加えると小5の86.5%が図画工作が「好き」と答えている。続いて2番目は、②体育の61.1%、3番目が③家庭の57.7%である。そして、体育の場合も家庭の場合も「まあ好き」を加えると、80%を超える児童が「好き」と答えていることになる。ただし、同じ実技科目でも⑤音楽は第5位で「とても好き」が34.4%、「まあ好き」との合計でも62.2%にとどまっている。

国社算理の中で、唯一4位にがんばって

るのは、④理科の38.0%である。

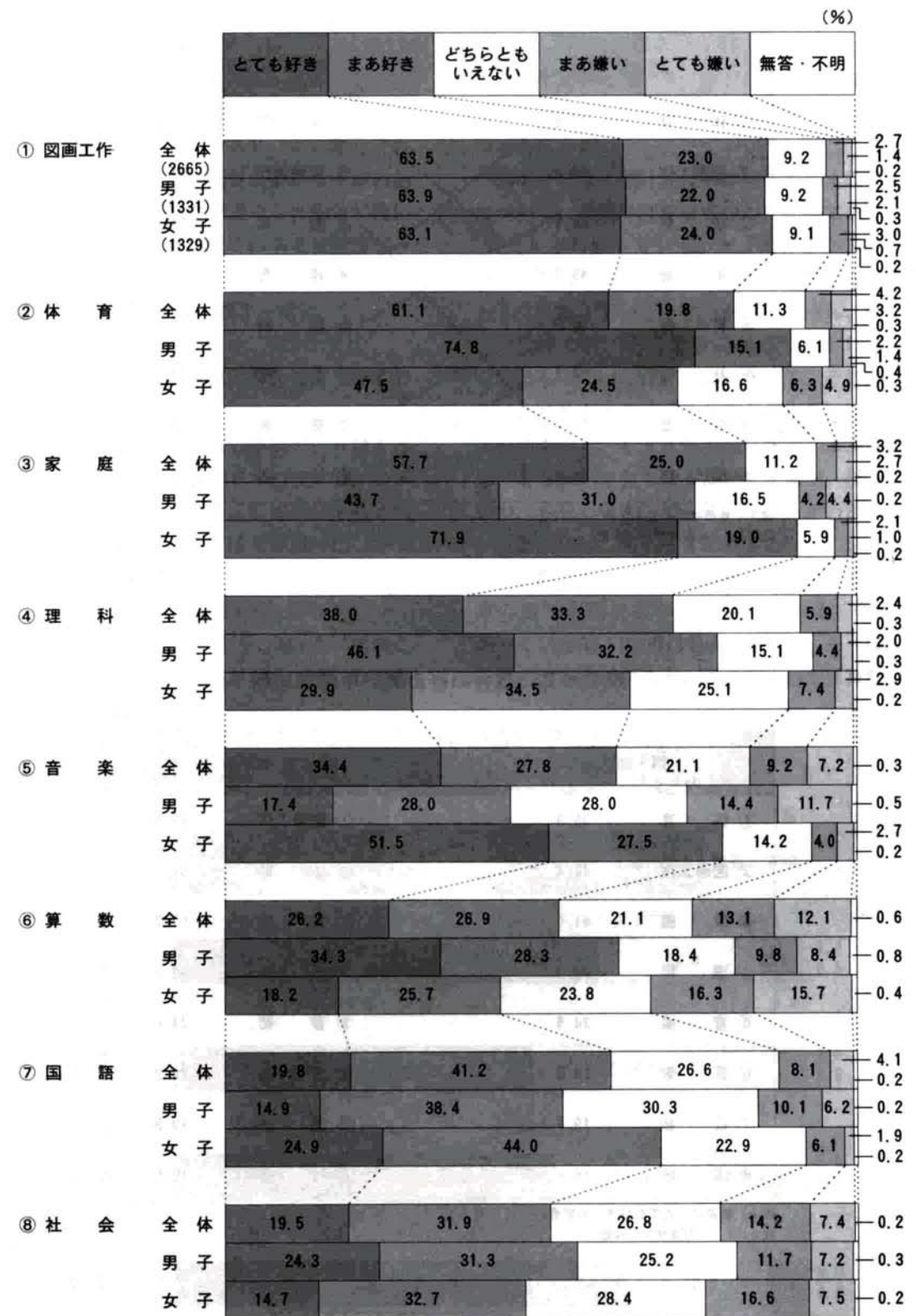
「とても好き」が少なかったワースト3は、最下位が⑧社会の19.5%、続いて⑦国語の19.8%で、いずれもわずかであるが2割を切っている。3番目は⑥算数の26.2%である。

次に同じ図で見方を変えて、「とても嫌い」と答えた割合をみると、もっとも高いのは、⑥算数で12.1%、これに「まあ嫌い」の13.1%を足すと25.2%、およそ4人に1人が算数を嫌いなことになる。また、社会も「とても」と「まあ」を合計すると、21.6%の児童が嫌いだと答えている。

性別には、表1-1にあるように、男子では体育が1位で74.8%、これは女子の体育の47.5%とくらべて、27.3ポイントも高くなっている。2位は、図画工作の63.9%で、図画工作の場合は男女であまり差はない。女子では1位が家庭の71.9%であり、男子の家庭の43.7%とくらべると28.2ポイント高くなっている。2位は図画工作の63.1%、3位は音楽の51.5%である。男女の比較では、男子のほうが女子よりも顕著に多かったのは、体育、理科、算数、社会であり、女子のほうが顕著に多かったのは、家庭、音楽、国語であった。

表1-2は1990年の第1回調査と今回調査の比較である。この6年の間に、前回1位だった体育がわずか1.3ポイントの増加しかなく2位に落ち、これに代わって、前回2位だった図画工作が14.1ポイント増えて2位から1位へ上昇している。その他、家庭は順位は同じだが16.7ポイントも増加している。また、前回最下位の8位だった国語は3.4ポイント増加し、社会と入れ替わって第7位になっている。

図1-1 教科の好き嫌い



注()内はサンプル数。

表1-1 性別にみた教科の好き嫌い

(%)

男子 (1331)		女子 (1329)	
① 体育	74.8	① 家庭	71.9
② 図画工作	63.9	② 図画工作	63.1
③ 理科	46.1	③ 音楽	51.5
④ 家庭	43.7	④ 体育	47.5
⑤ 算数	34.3	⑤ 理科	29.9
⑥ 社会	24.3	⑥ 国語	24.9
⑦ 音楽	17.4	⑦ 算数	18.2
⑧ 国語	14.9	⑧ 社会	14.7

注1) 数値は「とても好き」の割合。
注2) () 内はサンプル数。

表1-2 教科の好き嫌い年度別比較

(%)

第1回 (2578)		第2回 (2665)	
① 体育	59.8	① 図画工作	63.5
② 図画工作	49.4	② 体育	61.1
③ 家庭	41.0	③ 家庭	57.7
④ 理科	35.4	④ 理科	38.0
⑤ 音楽	34.5	⑤ 音楽	34.4
⑥ 算数	24.0	⑥ 算数	26.2
⑦ 社会	19.7	⑦ 国語	19.8
⑧ 国語	16.4	⑧ 社会	19.5

注1) 数値は「とても好き」の割合。
注2) () 内はサンプル数。

2. 国社算理の理解度

【国社算理の授業の理解度をみると、もっとも多い理科でも71.3%でしかなく、もっとも少ない社会では56.5%であり、どの教科でも授業についていけない児童の多いことがわかる。特に、成績下位の児童でこの傾向が強い。また、前回調査との比較ではあまり改善がみられない。】
(図1-2、図1-3、表1-3)

Q3

あなたの学校での勉強についておききます。

B. それでは、学校のじゅ業をどのくらい理解して(わかって)いますか。1)~4)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

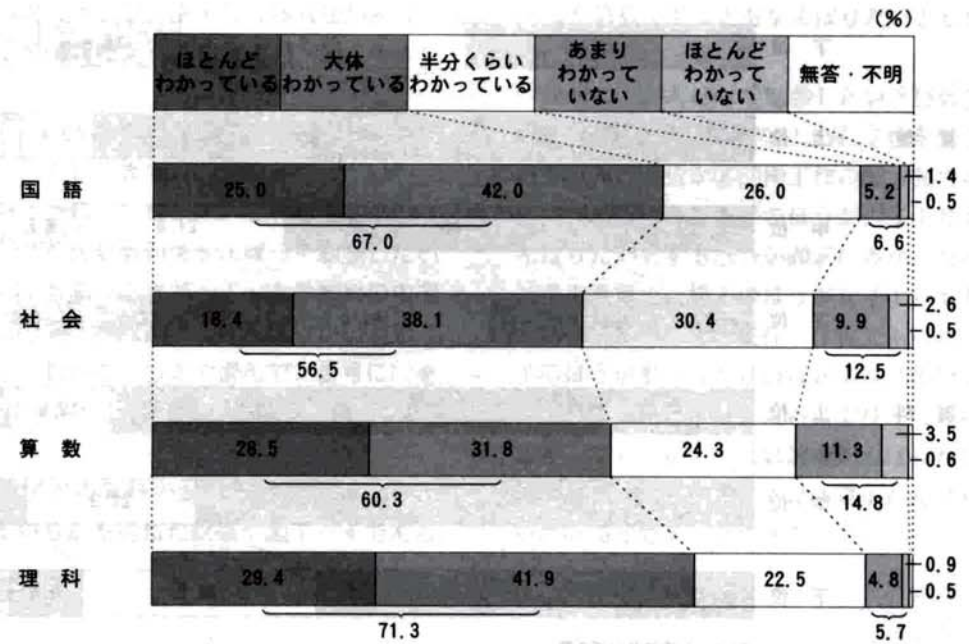
かつて、学校での“落ちこぼれ”“落ちこぼし”が問題とされた時期があった。昨今は、

この問題はあまり大きく問われることはなくなっている。しかし、実態はどうなっているのでしょうか。

図1-2は、国社算理の非実技系の4教科について、授業の理解度を尋ねた結果である。「ほとんどわかっている」と「大体わかっている」を合計した割合でみると、理科がもっとも「わかっている」割合が高く71.3%、続いて国語の67.0%、算数の60.3%、そしてもっとも少ないのは社会の56.5%で、その割合は5割をようやく超えたにとどまる。これらの結果から、もっとも少ない理科で3割弱、もっとも多い社会では4割強の児童が、授業がわからないままになっていることがわかる。

成績別には、図1-3にあるように、いずれの教科でも、予想される通り成績下位の児童のほうが理解度が低くなっている。「わかっていない」に着目し、「あまり」と「ほとんど」を合計すると、成績下位者では算数

図1-2 授業の理解度



で30.5%が、社会でも23.9%がわからないと答えている。さらに国語で14.7%、理科でも11.2%が授業がわからないと答えている。学年や学校段階が上がるほど授業の理解度が下がるといわれているが、成績下位者の場合、小5の段階でこのように少なくない児童が授業についていくことに困難を感じているので

ある。

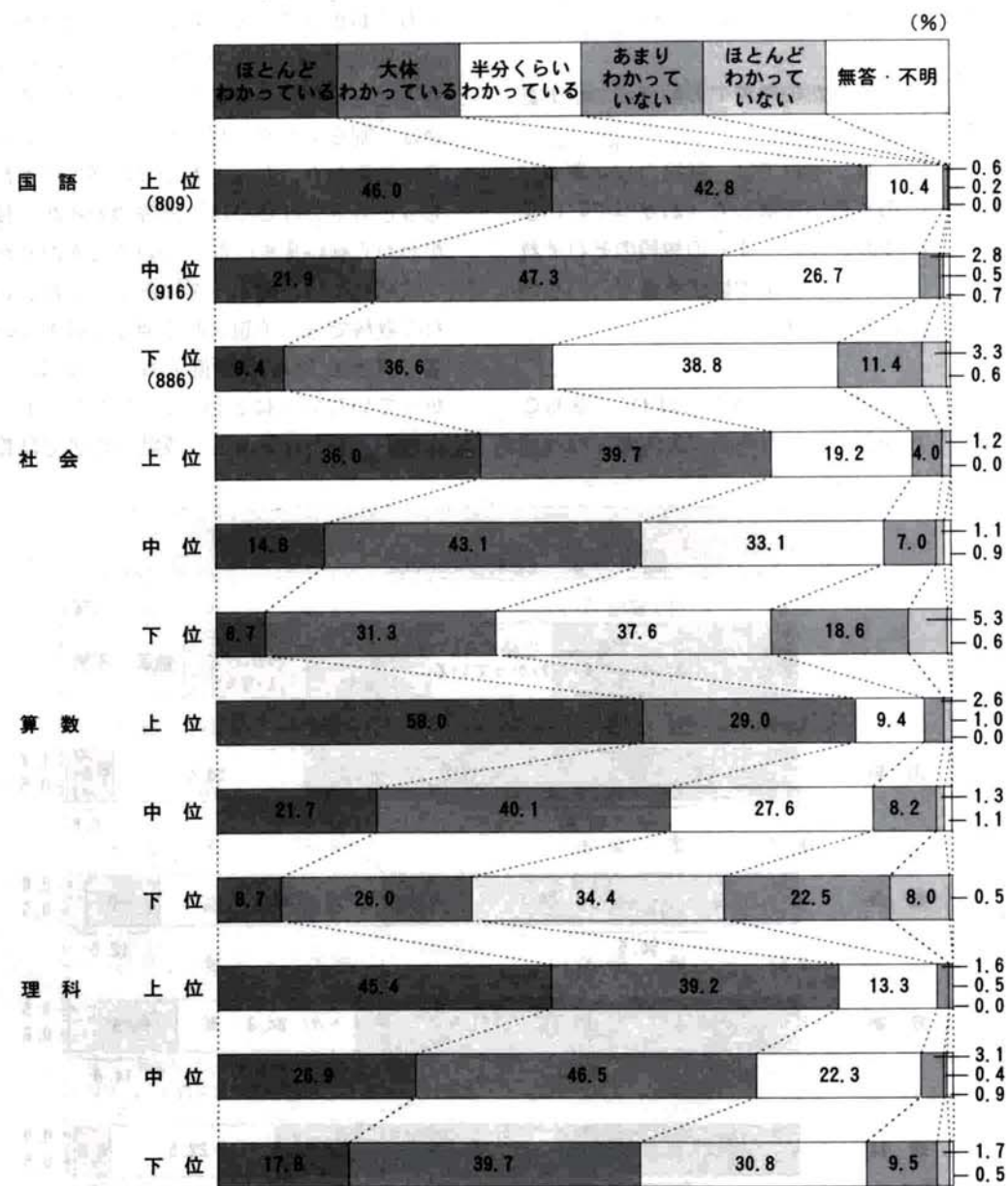
6年前の第1回調査と今回の調査との比較では、授業の理解度に大きな改善はなく、国語で4.1ポイント、社会で2.0ポイント、理科で0.8ポイントとわずかな改善にとどまっている。そして、算数では逆に2.1ポイント下がっている(表1-3)。

表1-3 授業の理解度年度別比較

	第1回 (2578)	第2回 (2665)
国語	62.9	67.0
社会	54.5	56.5
算数	62.4	60.3
理科	70.5	71.3

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「大体わかっている」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

図1-3 成績別にみた授業の理解度



注) () 内はサンプル数。

3. がんばって勉強したい科目

【小5の児童ががんばって勉強したい科目の1位は③算数の54.3%、2位が⑦体育の45.7%。がんばって勉強したいと思わない科目は、1位が⑤音楽の22.5%、2位が④理科の28.1%。性別には、女子では算数をがんばりたいが59.7%でトップ、男子では体育をがんばりたいが51.5%でトップである。】(図1-4)

まず全体から見ると、小5の児童ががんばって勉強したい科目の1位は③算数の54.3%、2位が⑦体育の45.7%、3位が⑧家庭の39.8%と続いている。4人に1人の児童が嫌いな教科であり、しかも授業の理解度も低かった算数をもっともがんばりたいとしているのである。

反対に、がんばって勉強したいと思わない科目は、1位が⑤音楽の22.5%、2位が④理科の28.1%、3位が⑥図画工作の32.2%である。

性別にみると、女子のほうが男子よりもがんばりたいとする割合が顕著に多かったのは社会と算数で、男子のほうが女子よりも顕著に多かったのは図画工作と体育であった。女子のほうが多かった教科は非実技系の教科、男子のほうが多かった教科は実技系の教科である。なお、女子では算数をがんばりたいが59.7%でトップ、男子では体育をがんばりたいが51.5%でトップである。

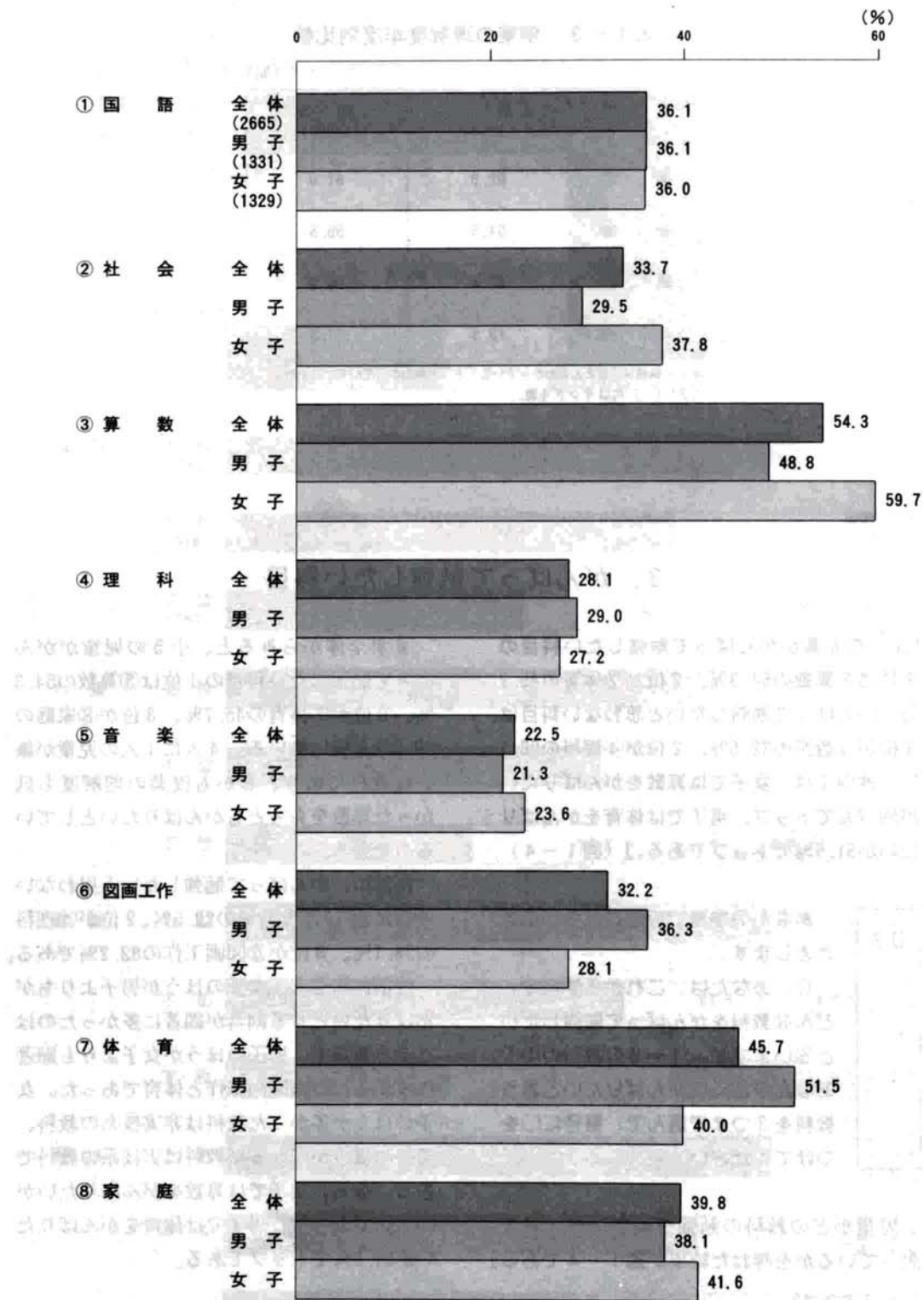
Q3

あなたの学校での勉強についておききます。

C. あなたは、これから学校で、どんな教科をがんばって勉強したいと思いますか。1~8の教科の中で、あなたがとくにがんばりたいと思う教科を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

児童がどの教科の勉強をがんばりたいと思っているかを尋ねた結果が図1-4である。

図1-4 がんばって勉強したい科目



注) () 内はサンプル数。

4. 授業の受け方

【小5の教室では、授業が難しいと感じる児童(55.4%)と簡単すぎると感じる児童(35.2%)とを同時に抱えて授業が展開されている。授業中の態度では、「ぼうっと他のことを考えている(39.3%)」がやや多い。成績別の授業の受け方の違いでは、授業の難易度の評価の項目でもっとも成績ごとの差異が大きい。】(図1-5、図1-6)

Q4

つぎに、あなたの授業中のようにすについておききます。1)~11)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

児童の授業の受け方をみたのが図1-5である。

最初に授業の難易度をみると、「②授業の内容が難しいと思う」が55.4%(=「よくある」「時々ある」の合計。以下同じ。)であり、半数以上の児童が授業が難しいとしている。しかし、「③授業の内容が簡単すぎると思う」と答えた児童も35.2%いる。教師は、授業が難しいと感じている児童と簡単すぎると感じている児童とを同時に抱えて授業を展開しているのである。

また、授業中の態度は、まず消極的に授業から逸脱=不参加の児童の割合からみると、「④授業中にいねむりをする」は5.2%と少な

いが、「⑧ぼうっと他のことを考えている」が39.3%とやや多くなっている。

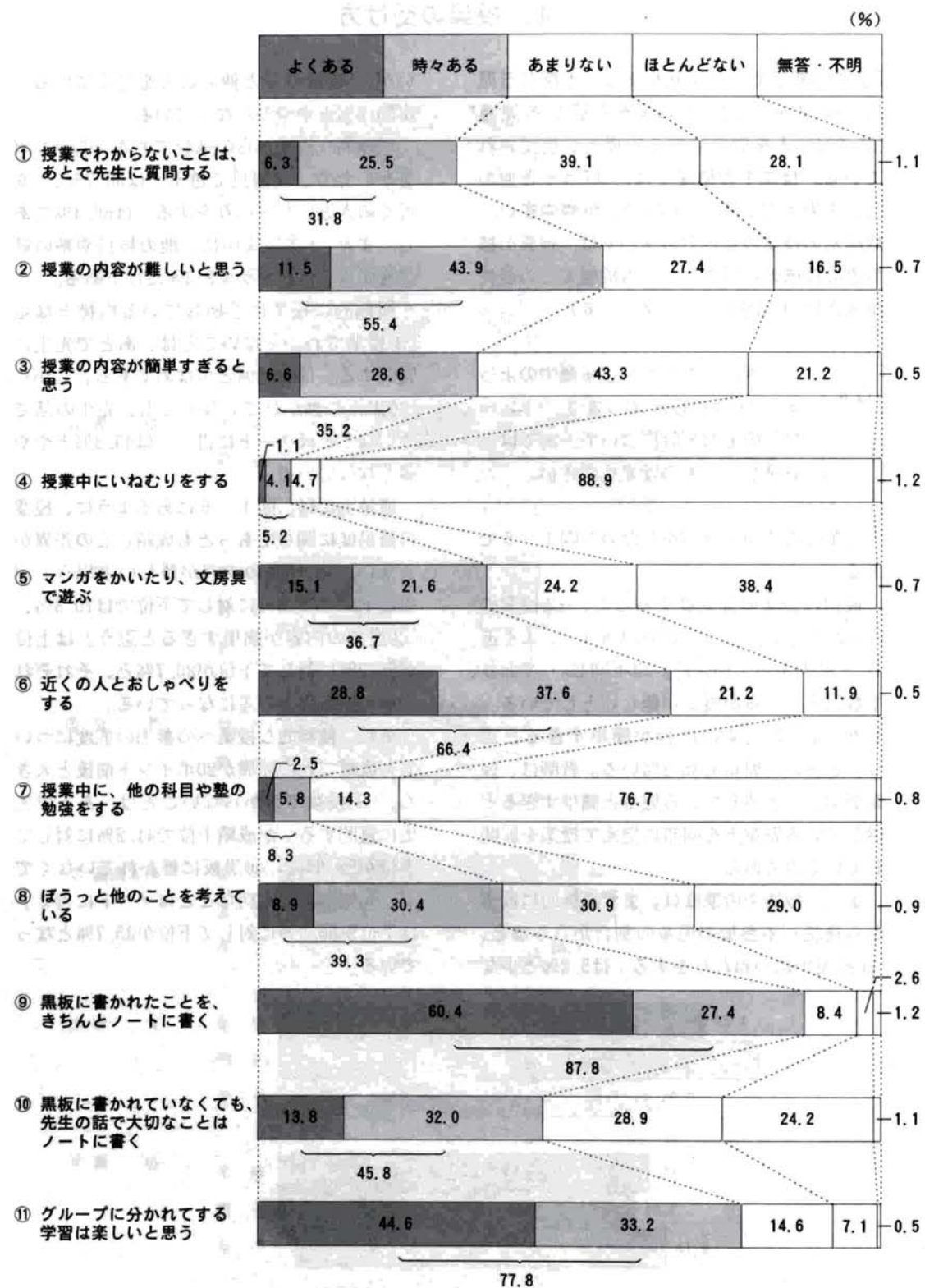
積極的な授業からの逸脱である「⑤マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」は36.7%、「⑥近くの人とおしゃべりをする」は66.4%である。また、「⑦授業中に、他の科目や塾の勉強をする」はわずかに8.3%だけである。

積極的に授業に参加している指標となる「①授業でわからないことは、あとで先生に質問する」は31.8%と少なめである。しかし、「⑩黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」は45.8%とやや多くなっている。

成績別には、図1-6にあるように、授業の難易度に関してもっとも成績ごとの差異が大きい。「②授業の内容が難しいと思う」が成績上位で35.5%に対して下位では70.8%、「③授業の内容が簡単すぎると思う」は上位が55.2%に対して下位が20.7%と、それぞれ30ポイント以上の差になっている。

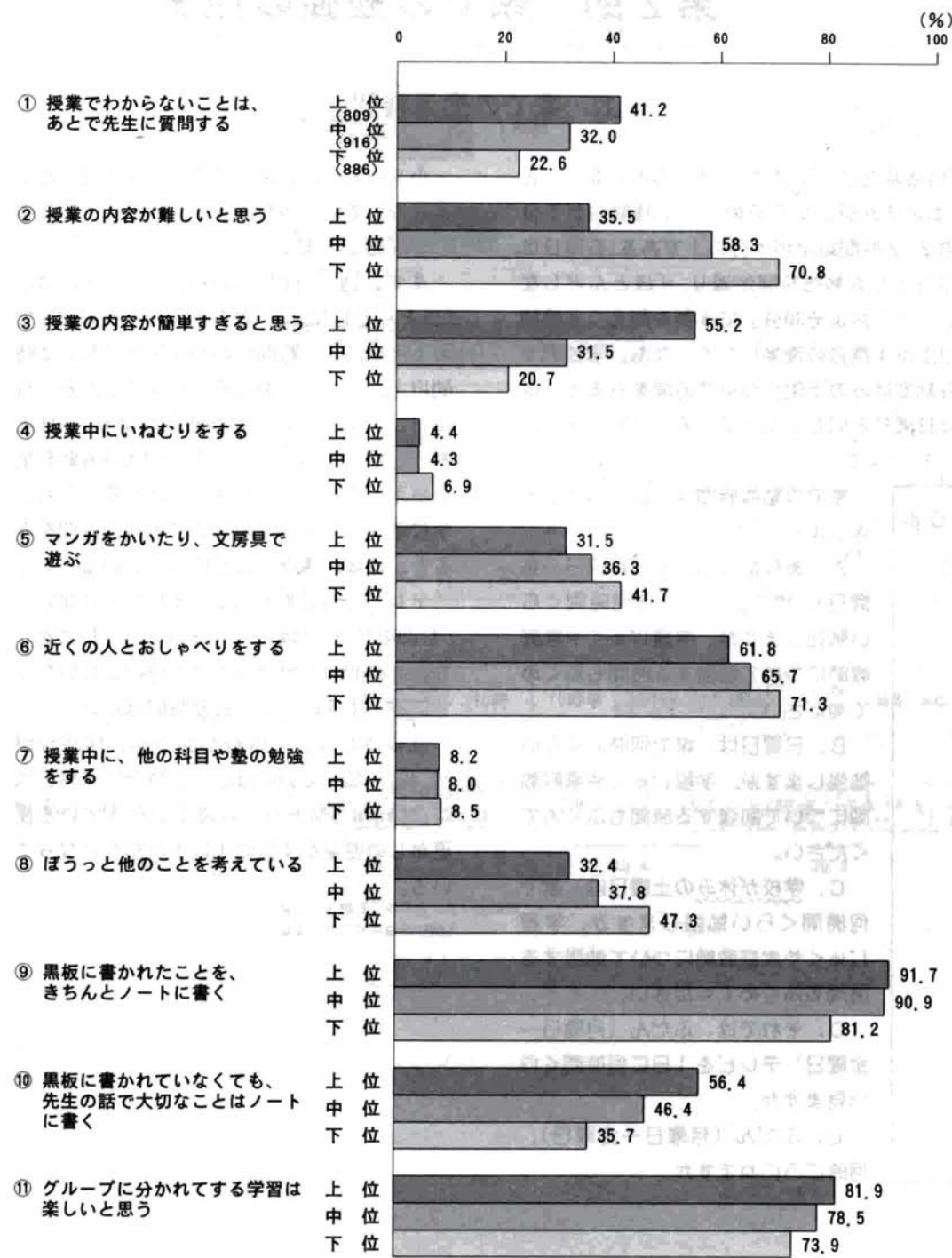
また、積極的な授業への参加の態度についても成績ごとの差異が20ポイント前後と大きく、「①授業でわからないことは、あとで先生に質問する」が成績上位で41.2%に対して下位が22.6%、「⑩黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」は上位が56.4%に対して下位が35.7%となっている。

図1-5 授業の受け方



注) サンプル数は2665人。

図1-6 成績別にみた授業の受け方



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ()内はサンプル数。